

会議開催記録

会議名	第9回 菊川市総合計画審議会
日 時	平成28年3月29日（火）19：00～
場 所	菊川市役所 2階 201、202 会議室
出席者	審議会委員13名、事務局4名
議 事	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 （1）第2次菊川市総合計画 基本構想（案）【資料1】 （2）第2次菊川市総合計画 政策・施策指標（案）【資料2】 4 その他 5 閉会
議事要旨	1 開 会 ・互礼 ・委員15名のうち13名出席。過半数の出席により会議成立。 ・資料確認 - 資料1 第2次菊川市総合計画 基本構想（案） - 資料2 第2次菊川市総合計画 政策・施策指標（案） - 参考資料 市民アンケート調査（現状値調査） 2 会長あいさつ 会 長 ：こんばんは。年度末の忙しい中、ご出席をありがとうございます。出席率も高く、大詰めにふさわしい会議となりました。本会議も最後のひと踏ん張りとなりました。TPP交渉の最後の会合のように思えます。ここ3回程、委員から激励の発言がありまして、事務局もそれに応える形で文章を直したと思います。本計画が単なる作文で終わらないように、目玉となるようなものが明示、あるいは裏に隠れていると良いといった要望、ビジョン、目標が一つとなる構成にも配慮をお願いしておりまして、その観点から忌憚のない意見をお願いしたいと思います。 3 議事 （1）第2次菊川市総合計画基本構想（案）について 事務局 ：資料説明。 会 長 ：ありがとうございました。過去3回皆さんの意見を入れながら、事務局で検討した結果です。原課との調整にも労力を要したようです。現段階での限界もあるかと思います。率直な意見をお願いします。

委 員 : 全体的に一段と具体的になったと思います。

51 ページの施策(1)について、これは文科省の教育課程に則した形だと難しいです。武雄市のような場所ですと民間と組んで行っています。しかし、これを実行していくときに、例えば㈱DeNAなどは「プログラミングの授業を日本も取り入れないと世界についていけない」と省庁にアピールするなどしていますので、菊川市だけで実施した場合、文科省からの障壁があって授業を組むことが困難になるかもしれません。ですので、これを菊川市だけで考えていると難しいかもしれませんが、民間と組んで実施していけば、例えば会社と組んで無償でできることもあるので、子どもたちがそれを目的に家族で引っ越してくるのではないかなどと思いました。

会 長 : 本学校でもプログラミングは学生が苦勞しています。

事務局 : 民間企業とのタイアップやコラボは政策を推進する上で重要な視点と考えていまして、共創ということで、民間とどのようなことができるかを深めていきたいと思っています。目ざとく見つけることを努力しなければいけないと考えています。

会 長 : 他にありますか。

委 員 : 40 ページ目標3の「活気があふれ」という表記は、「活気にあふれ」の方が良いのではないのでしょうか。43 ページの目標3では「活力があふれ」となっています。

55 ページの施策の内容が薄いので、もう少し説明を加えた方が良いと思います。77 ページで、今交流人口が多くなってきましたと1つの市で完結する取り組みは難しいので、周辺市町と連携してやらなくてはできないものが多いと思います。そうすると、施策の(3)に取り組みの姿勢が弱いと感じたので、表現を加えてもらえるとありがたいです。

事務局 : 言葉の整合がとれておらず申し訳ありません。「活力」は誤りで、「活気」が正しい表現です。「活気にあふれ」、の方が通常多い表現であると思いますので、「活気に」に修正します。55 ページの施策の内容については、お時間を頂きたいです。77 ページの広域連携は、観光交流のことだけで、施策の高位系連携は、99 ページの施策(5)に他市町との広域連携を推進すると書いてあります。

会 長 : ありがとうございます。他にありませんか。過去に意見を頂いた中であればお願いします。

委 員 : 70、71、72、73 ページで、施策の順番で担い手や人材育成を最重要課題として1番目に挙げてほしいと感じています。菊川型農業モデルを作るにも、核となる人材がいません。人材がしっかりとした経営体を作り、次のステップに行くのが施策となると思います。人づくりが重要ですので、一番目立つようにしてほしいです。

事務局：71 ページの（２）を上に掲げるとのことですが、戦略について、菊川型農業モデルを重点と考え１番目にしています。他の委員はどう思いますか。

会長：順番が優先度とは限りませんが、読んだ人の受け取り方もありますので、順番を入れ替える考え方もあります。また、担い手の育成が一番深刻な問題かと思しますので、どのようにすれば良いか意見ををお願いします。

委員：例えば、保育所が足りない中、保育士も足りなくなっているときに、保育士から人気のある保育所があります。それは保育士の教育を行っている保育所です。例えば、海外の保育所を視察するなどのプログラムがあります。人・物・金・情報で、農業が特別ではありません。人に関しては（２）に書かれていると思います。菊川型農業モデルは、人づくりで推すのか、品目で推すのでしょうか。あるいは教育のようなところに重点を置くモデルでも良いかと思えます。

J A 浜中は北海道の酪農地区で、ハーゲンダッツの牛乳を全てそこで契約して出しています。１人あたり平均１億円程の売り上げがあります。20、30 年前から、研修生の教育施設や品質管理の研究開発を行う施設の整備を行っています。産業をしっかりと抑制して利益になる仕組みを作ることと教育をしっかりとすることが鉄則です。菊川型農業モデルが勝つためには、人づくりが必要です。菊川型農業モデルに人づくりを入れて、「菊川に來ないと茶業ができない」というくらいにしないといけないと思います。

会長：ありがとうございます。

委員：農業事情を考えますと、（２）から（５）は普遍的な問題です。これらから（１）を特出しと考えていますので、この並びで良いと思います。

会長：（２）の育成に関しては、菊川型農業モデルに位置付けて、項目として大きく出すという形でコメントに菊川型農業モデルとして書く、あるいは（１）と項目をつけるなどの方法があります。

委員：（１）は人・物・金の情報が全て入ってしまっていて、菊川型農業モデルができるという全体的なものです。その中に「人づくりが大切」という要素を入れて、具体的には（２）の人・金、となっていけば良いと思います。ですから、（１）をもっと深くしてもらって、この並びにすれば良いのではないのでしょうか。

副会長：（１）から（５）に序列があるとは考えていません。菊川型農業モデルのフレームの中で、人や基盤の問題を構築していくと考えていましたので、序列はないと考えています。

事務局：意見ありがとうございます。菊川型農業モデルは、農林大学校や技術学校の授業の内

容を入れていきますので、その件についても記述し文章を修正して、人づくりの表現をしたいと考えます。

会 長 : (2) に菊川型農業モデルについて触れるとわかりやすいのではないのでしょうか。

事務局 : (1) に人材に関することを入れるか、(2) だけに入れるか、あるいは両方入れるか、意見はありますか。

会 長 : 農業女子も人材育成ですので、(1) で人材育成も柱であり、その特出しとして、(2) で明示するということはいかがでしょうか。

事務局 : その方向で検討します。文章については会長と相談します。

会 長 : 他にありませんか。

副会長 : 30、31 ページでは、基本的に文章が「必要です」と締めくくられています。その中で、課題 1 の 1 番目では「必要があります」、課題 2 の 1 番目では「懸念されます」、課題 4 の 1 番目では「必要があります」、課題 5 と課題 6 に「重要です」とあります。何故「重要」と「必要」の表現を分けているのかがわかりません。また、35 ページで「重要です」と「必要です」との分け方もあります。37 ページの将来都市構造の「にぎわいと活力を生み出す都市づくり」の文末は「推進します」とあります。それ以外は、「進めます」となっています。40、41 ページの目標 1 では「努めます」、目標 5 では「推進します」とあります。100 ページの (5) でも、「重要です」と「推進します」といった能動的な表現と第三者的な表現が混在しています。

事務局 : ありがとうございます。30、31 ページは「必要です」に統一します。35 ページは「進めます」に整合します。41 ページは「目指します」に統一します。同じ表現が続きますので、書き方を全て統一するようにします。

副会長 : この指摘をしたのは、「必要」は「必ず入れなくてはならないもの、目的を達成することを念頭においたもの」という意味で、重要は「大切に必要なこと」という意味で、必要よりも少し重い言葉です。「必要」とは大切よりも公共性、客観性を高めているなど、少し意味が違います。その使いまわしを息が詰まるという理由だけで変えるというのは違うと思います。

会 長 : ありがとうございました。

事務局 : もう一度読み返して、言葉の意図と合うように修正します。特出ししたいものは「重要」とするなど使い分けをします。

委員：77 ページの（３）で、「広域市町と連携した観光」とありますが、個人的には必ずしも広域と連携しなくても良いと思います。広域連携は有効に見えます。しかし、観光協会で、森・袋井・磐田・掛川・御前崎で「遠州観光ネットワーク」としてインバウンドをやっていますが、個人的には無駄だと感じています。外国人から見て静岡県が分からないのにも関わらず、その中の中東遠をPRしても無駄です。菊川市にとって有益な事業は多くありません。個人的には離脱しても良いと思っています。広域で有効なものがあれば良いのですが、無駄になる可能性のある事業が多く、そのうえ広域の場合は菊川市が主導権を握ることができません。考え方としては良いかもしれませんが、計画に書いてしまうと広域をやらなくてははいけません。全面的に広域を出すと、「計画にあるのに菊川は広域に消極的」と言われてしまいます。ですから、文章から「広域」と「連携」の表記を無くすとやりやすいと感じます。

会長：率直なご意見をありがとうございます。

委員：今の意見はもっともですが、「広域」は一つのキーワードとなっており、DMOという流れもあります。菊川市が独自で魅力を発信することも大事ですが、菊川市も見て都会も見てとなりますと、広域の方が人を呼び込めるということになります。国が助成する場合も広域となっており、単独は難しいです。広域連携が過小評価されがちですが、この辺りの地域は個々の町がしっかりしていますので、残した方が良いでしょう。計画については、序論は充実していますが、基本構想の政策の部分で、施策の説明がタイトルの繰り返しになっているところもあります。取り組みの方法は良いと思いますので、再度読み直してもらい、施策の指標に繋がっていない部分については見直してもらいたいです。

会長：広域連携に関して、意見がありましたらお願いします。

副会長：具体事例として、冬場は北海道からツアーでゴルフ場に来る人が多いです。北海道から来て県内でゴルフをするときは３日連続で行っていますが、ゴルフ場は全て別の場所です。掛川のよみうりカントリークラブとミオス菊川カントリークラブ、菊川のホロンゴルフ倶楽部辺りで３日間のツアーがあります。何故静岡県内でゴルフをするかと言いますと、安いからです。特によみうりカントリークラブはネットで日ごとに値段が公表されていて、ウィークデイは１万円以下です。普通のゴルフ場ですと食事込みで２万円程になりますので、よみうりカントリークラブですと半分くらいの値段でできます。菊川に直接来る人は少ないようですので、そのような連携をしまして、菊川市のゴルフ場でプレイしますと市内のビジネスホテルに泊まることも期待できます。

委員：「広域」と聞いたときに、この辺りの市町村のイメージが無くて関東圏の市町村と組むようなイメージを持っていました。菊川市は観光に力を入れてきた市ではないので、ど

ちらかというと近隣で連携しつつ、空港のある地域とも連携することも良いと思います。福岡市は行きやすく連携しやすい市で、活動も一緒にしやすいので九州の人とはよく交流をしています。

会 長 ：この地域だけではない広域もあるという方向で、修正をしますか。

事務局 ：就航先の旅行会社とも話しをしていたり、県を通じて広域の連携も考えていたりしていますので、そこはどうしても重要です。相手先については、福岡や海外に対してもトップセールスをしていますので、できればこの言葉を残したいと思います。

会 長 ：韓国の人はゴルフ好きが多いです。ゴルフ場などもグローバルに人を呼べるので、誘致も近隣と実施したり、県が整備するお茶の里などをインバウンドで引っ張ってきたりなど、可能性があると思います。このようなことに配慮した記述でどうでしょうか。

委 員 ：ゴルフ場の話は聞いています。広域は内容によりますし、単なるお付き合いとして広域連携していくことは難しいと思いますので、言葉にしなくても良いです。

委 員 ：50、51 ページは修正がありましたので満足しています。当初、審議会委員と作業部会の意識が乖離していたと思います。だいが意を汲んでもらいました。ICTそのものは道具ですので、10 年前に配布していたホワイトボードと全く変わらないので、本質が変わらないといけません。そうすると「ICTを導入することで行く先は何か」ということが重要です。例えば、起業家教育をICTで行うなどといった目的が必要だと思います。このことについては、作業部会で認識してもらえれば良いと思います。

51 ページ（3）の学校の在り方について、有識者・専門家で組織を立ち上げるとの言葉もありがたいです。10 年後も今の学校教育制度のままでいくとは思えず、有識者を交えて方向性を考えていくことは重要ですのでありがたいです。近隣市では教育政策課があり検討している市もありますが、菊川市にそのような課が無い中考えることが大変であったかもしれませんが、有識者を交えた検討はありがたいです。

会 長 ：総合戦略の際に議論になりましたが、フィリピンからの労働者が多く、その子どもの教育が問題としてありました。日本語指導が必要な生徒との表現については、先日日本語を指導するNPOが文科省の補助を打ち切られて困っているとのテレビ報道もありました。自治体によっては力を入れているところもありますが、菊川市は力を入れて支援するということで良いでしょうか。

事務局 ：補助の打ち切りという話もありましたが、3市で連携して事業を継続しています。菊川市は人口全体の5%が外国人ですので、続けます。

会 長 ：すばらしいです。もっとPRした方が良いかもしれません。

では、議事 2 の指標について説明をお願いします。

(2) 菊川市総合計画 政策・施策指標一覧について

事務局 : 資料説明。

会 長 : ありがとうございます。意見はありますか。

委 員 : 3 ページの「安全でおいしい給食」という項目で、私たちのような取り組みが重宝されています。しかし、近隣では袋井で一番地産地消が進んでいまして、25%程となっています。直接的な地産地消率を計られた方が良いと思います。子どもたちからは「給食がおいしくない」との話を聞きますので、おいしい給食にするだけにして、指導はいらないと思います。おいしい給食と地産を図るとした方が良いと思います。

事務局 : 地産地消率については把握できるかどうか、指標として毎年管理できるのか、調べて検討します。

委 員 : お茶工場の数については、平成 37 年には減少するとのことですが、生産量をもとに、17 年から 27 年までの生産量の減少に比べて工場数が多すぎる状態になっています。もっと数を減らした方が、残った工場が元気になるので良いと思います。現在は工場の減少率から導いていると思いますが、生産量の減少率をもとにした方が良いと思います。

事務局 : 工場数から見えています。経営対数を減らした方が元気が出るとの意見もありましたが、茶業振興課からは経営体を増やしていくことで活気が出るのではないかとということで、指標は設定しています。生産量の視点から出しているわけではありません。

委 員 : 81 工場に減少するとの根拠は何でしょうか。

事務局 : 想定です。40 トンであった平成 7 年の荒茶の生産量が平成 21 年で 80%減少となっていますので、それほど変わらないと思います。それ以降の荒茶の生産量のデータがないので、率の産出が難しくなっています。

お茶のデータに関して苦慮しており、関東農政局が調査をしていましたが、その後、県が平成 21 年度までデータを出していましたが、それ以降はありません。市の内部も含めて調査をしたいと思っていますが、統計の主管課長会議で話したこともあります。ビッグデータの会社についても全国の荒茶のデータがないとありますので、生産量に対する減少率が出ていないのが現状です。原課としては、工場が減少していく中、そのうち 20%はしっかりとした経営体の育成をしたいとのことで設定をしました。20%が適正かどうかということの問題は、残された 20 パーセントをしっかりとした経営体にしたいとのことで設定をしました。

会 長 : 事業主体が減ると生産性が上がりますが、ここでは経営体を増やしたいとの趣旨があります。事業主体を行政が左右することは難しいですので、産業政策をやらないとできませんが、あまり行政では増減できません。

委 員 : 言われている通り、目的が経営体を増やしたいとのことですので、工場の増減とは関係ありませんが、あまりこだわらなくても良いと思います。減っているとは聞いていますが、こだわらなくて良いと思います。

委 員 : 17 ページの観光交流客数で、10 年後に 40 万人に増やすとありますが、一方で資料 1 ではここ 5、6 年で 40% 増えているとあります。観光交流はインバウンドも含めて相当伸びる可能性が高いので、これは控えめの数値だと思いますので一考をお願いします。

産業の区分が政策大綱と順番が違ってしています。基本目標 2 の保健医療社会教育が逆になっていたり、防災も順番が違っていたりしていますので、整合性を取った方が良いでしょう。

事務局 : 冊子の 42、43 ページと資料 2 に書かれている大綱の順番が違いますが、冊子が正しいので修正します。

副会長 : そもそも、基本目標を達成・充足させるために施策がありますが、主な施策が記載されています。この施策をしっかり実行すれば、目標が達成に近づくはずですが、この施策を見ますと、この基本目標から抽出されたものであるのか疑問です。第 1 次総合計画の後期基本計画の 26 年度報告と 27 年までの成果を精査した中で、この施策が組み立てられているのかが見えません。課だけでなく、全てが検討したのか、全体を見てたたいっている方がいないと思います。出した課が主体となって、数値目標を設定していると思います。状況の説明をお願いします。

事務局 : 内部的な話としまして、資料 1 の 103、104 ページにありますが、103 ページに策定委員の名簿があります。部長職の方でここが全体を見る場としてあります。104 ページで、3 つの部会で、各部長も入って部会長として 5 つの柱の中を課長職が基本目標の下にぶら下げる作業をやってきました。専門部署が政策施策を決めてきました。全体を見る場としては、103 ページの策定委員会でやっておりまして、ここで検討をしてきました。第 1 次総合計画については、27 年度が終わったときに総評価をしまして、28 年度が終わったらまとめていきます。それから継続するものなどもありますが、その辺りも加味しながら検討を進めてきました。

副会長 : 例えば、6 ページの②ですが、前の計画ですと 27 年度の目標が 4000 人となっています。今、65 歳以上の人口が 1.3 万強となっております、29 年度は 1.6 万人になります。それをはずしてがん検査となっております、目標が 500 人です。たった 500 人が検査

を受けても大勢には影響が無いと思います。

19 ページの④の地域防災訓練の参加者数に 9 年後の目標があり、説明がありますがこれは言い訳です。1 世帯 1 人の参加で良いのでしょうか。参加することで意識付けを図っています。自主防災を一生懸命している中、市が現状で良いとなるとどうでしょうか。

22 ページの公園の整備に関して、28 か所から 30 か所に増やすとありますが、第 1 次総合計画の目標が 30 です。9 年後にどうあるべきかの視点を大きな気持ちで作ってもらいたいです。今いる人がこれで良いのではなくて、自分たちがいなくなったあとどうなるのかを考えまして、全ての政策については組み立ててもらいたいです。

事務局：ありがとうございます。公園に関しては、運動公園などの近隣公園と小さい公園と全部合わせて 58 か所あります。自治会に密着した小さな街区の公園は地元で管理してもらいましょう、ということでやっています。今の後期計画は平成 27 年度に 28 公園を自治体に委託したいという目標です。58 か所のうち 30 か所は少ないというのは大きい公園があるからです。できるだけ生活にあるところは自治会にお願いをしていますが、この 9 年間にどれだけ公園が増えるかということも含めて、2 つは増やしていきたいとの考えです。公園などでもこのような検討を踏まえて出しています。その他も検討しておりまして、目標を設定しましたのでご理解を頂ければと思います。

副会長：自治会に委託できない公園があることもわかっていますが、ほとんど施策として打ち出さなくても消化できていくものでもありますので、他に出す施策はないのかと思います。

会長：自治体で、指標をどう選択してどう事業者を選択するかというのは、専門的な学識者と行政とチームを組んで、毎年議論する作業をしておいた方が本当はとても良いです。審議会だけで全事業を選択することは難しいです。静岡県でも毎年見直しを学識者が入りながら行っていましたので、客観的なチェックと共同で選択することが必要だと思います。大変かとは思いますが、考えてもらえればと思います。指標につきましては、解説がないとわからないという問題は、総合計画の中に解説を入れてもらえるとうわかりやすくなると思います。

事務局：外部評価に関しては前回もお話ししましたが、個別の計画があり、全てではありませんがそこで外部を交えた策定もしているところもありますので、できるだけ個別計画を見直す際に外部評価を入れる仕組みを多くしたいと考えています。企画政策がそれを担うとありますので、そこをヒアリングしながら報告していきます。

会長：勉強会としてやっているところもありますので、検討をお願いします。

時間が来ました。今回の審議会が区切りとなりますので、意見があればお願いします。よろしいでしょうか。原案で、基本となる指標について、このアンケートでいくということによろしいでしょうか。

事務局：１点、資料１で５５ページの施策の中身が薄い部分と、７１ページの農業の人を入れる部分に関しては修正をしますが、文章に関しては会長と話を決めてよろしいでしょうか。

会長：案を相談して作りまして、皆さんにメールでご意見を伺うということでよろしいでしょうか。

委員：会長と副会長の一任で良いのではないのでしょうか。

会長：それでは一任でいきます。

事務局：パブリックコメントまでには修正したいと思いますので、５月にはパブリックコメントですのでお願いします。

会長：かなり手ごたえが出てきたように思います。整合性が取れていない部署もありますので、磨きをかけてもらえればと思います。
では進行をお返しします。

４ その他

・次回開催日報告

５ 閉会

副会長：長時間、ありがとうございました。審議会も大詰めとなりました。人事異動により審議会委員や事務局を離れる方にきちんと報告をできる計画にしたいと思います。
以上をもって審議会を終了します。

以上